



夢に向かって

「運動が苦手で、嫌いだった」という意外な言葉から始まった、元日本代表バレーボール選手大山加奈さんの講演会。2020 東京オリンピック・パラリンピック・ムーブメント事業の一環でこの講演会が実現しました。

子どもの頃、喘息気味で無理ができなく学校もよく休み、運動からは遠ざかっていたと言います。先輩の姿にあこがれてバレーボールを始めたのですが、最初はレギュラーの妹をコートの外から応援する立場でした。

「妹に負けたくない」という小さな目標が大山さんを変えていきます。練習と努力を重ね、喘息も改善されます。夢は、日本一になること、オリンピック選手になること。そして、小・中・高と全ての年代で全国優勝し、高校生の時に日本代表に選出され、20歳でアテネオリンピックに出場します。

順風満帆の選手人生のように見えますが、なかなか結果が出ず悩んだり、日本代表の時には、プレッシャーで夜も眠れなくなり、合宿所を逃げ出そうとしたりしたそうです。アテネの次の北京オリンピックでは、腰痛のために日本代表を辞退し出場ができず、手術後は長いリハビリ生活を送りました。活躍する仲間をうらやんだこともありました。

そんな時、「夢は叶うんだと自分を信じる」、「何でも一所懸命にやる人こそ夢が叶う」、「応援されるにふさわしい人になる」、「自分の弱さを受けとめてくれる人や仲間がいる」ことで苦難を乗り越えてきたことを子どもたちに語ってくれました。

講演会の後には、6年生対象のバレーボール教室が行われました。



ゆめはかならずかなう、ということをおしえてくれてありがとうございました。ぼくは、しょうらいバスケせんしゅになりたいです。ゆめにむかってがんばることがだいじだとわかりました。まわりのともだちがかなしんでいたら、こえをかけてあげたいです。ともだちをたいせつにするのもだいじですね。（1年 伊藤 大起）

友達を大切に、困っている人がいたら相談にのってあげたいです。加奈さんが最後に言っていた「夢は叶えることより、叶えるためにどうがんばるかの方が大切です」この言葉をいつまでも覚えておきたいです。ぼくにも夢があるので、その言葉を思い出して夢を叶えるためにがんばっていきます。（5年 松下 拓夢）



保護者の皆様、地域の皆様、本校の教育にかかわった皆様、本年も大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。良いお年をお迎えください。（文責 校長：植田）